大学教育学会ニュースレター

No.96　　2014. 4. 15

大学教育学会（*Liberal and General Education Society of Japan*）
事務局　：桜美林大学淵野辺キャンパス内
〒252-0206　神奈川県相模原市中央区淵野辺　4-16-1
TEL/ FAX：(042)704-7014
郵便振替口座:00120-4-178891　大学教育学会
e-mail:**ungakkai@gmail.com**　　URL: http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/

大学教育学会第36回大会を開催するにあたって

大学教育学会第 36 回（2014 年）大会
大会実行委員長 夏目　達也（名古屋大学高等教育研究センター）

大学教育学会第 36 回大会を、名古屋大学東山キャンパスにて、5 月 31 日、6 月 1 日の両日開催させていただくことになりました。

本大会の統一テーマは「研究と実践の往還から創出する知識」です。本学会の会員のほとんどは大学をはじめとする高等教育機関に所属しており、教育や学生に対する支援活動になんらかの形で関わっています。教員だけでなく、大学職員も部署により関与の形態と内容には多少の差はあるにしてもいずれも重要な役割を担っています。多くの会員は、日々の実践の中で多くの問題と格闘し試行錯誤を繰り返しています。その過程の中で、研究の課題を見いだし、課題解決のためにさまざまな研究や検討・考察をしています。さらにその成果を実践に採り入れて実践の内容と質の改善を図っています。この一連の過程は、研究と実践の往還ととらえることができます。研究と実践はそれぞれ別個のものとしてではなく、相互の内容を高めるための不可分の関係ととらえることが必要と思われます。日々の生活の中では、意識することは少なくても、実際にはこの往還を繰り返しています。

本学会は、「大学教育の大衆化に伴う「大学教育研究」の開拓を志向し、かつ広範な大学教員が参加する「大学教員としての自己研究」活動（FD 型研究活動）に主眼」を置くことを特質としています。つまり、高等教育における教育・学習の改善に向けた実践的な研究を志向しています。それを具体的に実現するための一つのステップとして、研究と実践の往還から創出する知識というものの性格と内容の解明に迫ってみたいと考えます。

会場は全学教育棟（教養教育院）と豊田講堂です。両者は地下鉄駅出口に隣接する道路（山手通り）を挟んで位置しています。全学教育棟では受付、ラウンドテーブル（1 日目）、自由研究発表（2 日目）を行います。豊田講堂では 1 日目午後の基調講演、公開シンポジウム、総会、情報交換会を行います。

現在、企画・実行委員会を中心に、大会準備を進めています。大会開催をお引き受けしてから、大会運営の大変さを実感しています。委員会のメンバーは本学会と同規模の大会は過去に何度か経験してきましたが、今回は過去にないハプニング続きです。その最大のものはメンバーの転出です。事務局メンバー4 名のうち事務局長を含め 2 名が 3 月末に転出します。事務局長は 4 月以降週末に合流して作業を担当するというアクロバットを演じながらの大会運営になります。

5 月末の名古屋は、すでに蒸し暑くなっていますが、財政事情と内部規則の厳しい国立大学ゆえに、冷房を稼働させられない場所もいくつかあります。皆さまにはご不便・ご迷惑をおかけすることもあろうかと存じますが、充実した大会にすべく委員一同精一杯の努力をしますので、皆さまのご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

大学教育学会第 36 回（2014 年）大会

統一テーマ

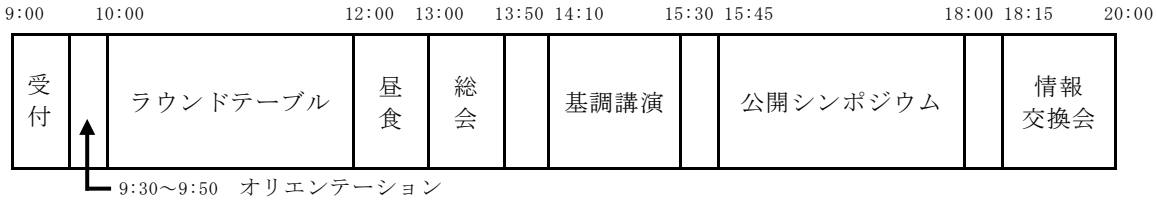
「研究と実践の往還から創出する知識」

1.　開催期日および会場

期　日　2014年5月31日（土）、6月1日（日）
会　場　名古屋大学東山キャンパス（名古屋市千種区不老町）
全学教育棟：受付、ラウンドテーブル、自由研究発表
豊田講堂　：基調講演、総会、公開シンポジウム、情報交換会

2.　大会日程

第１日：5 月 31 日（土）



第２日：6 月 1 日（日）

第１日　　5 月 31 日（土）

9:00 ~	受付
9:30 ~ 9:50	初めて参加する人のためのオリエンテーション
10:00 ~12:00	ラウンドテーブル 1～17
12:00 ~13:00	昼食（土曜日は南部食堂が通常営業をしております）
13:00 ~13:50	総会
13:50 ~14:10	休憩
14:10 ~15:30	基調講演　亀山郁夫氏（名古屋外国語大学・学長） 講演題目「現代社会を生きるための教養と大学教育」
15:30 ~15:45	休憩
15:45 ~18:00	公開シンポジウム 「大学教育改革につながる実践的知識の共有」
18:15 ~20:00	情報交換会

第２日　　６月１日（日）

9:00 ~　　受付

9:30 ~12:00　　自由研究発表Ⅰ

12:00 ~13:00　　昼食（お弁当の事前申込を受け付けております）

13:00 ~15:00　　自由研究発表Ⅱ

※ 日曜日の昼食に関しては、お弁当を事前にお申し込みいただき、南部食堂で召し上がっていただく方式になります。尚、お弁当を召し上がるかどうかにかかわらず、1日の昼食・休憩には南部食堂をご利用いただけます。

関連行事　　5月30日（金）

16:00~18:00　　理事会（名古屋大学東山キャンパス 文系総合館７階カンファレンスホール）

進行の詳細

5月31日（土）

9：00～　　受付

9：30～9：50　初めて参加する人のためのオリエンテーション

会 場：C15　　担当：　事務局長　石渡　尊子（桜美林大学）

10：00～12：00　ラウンドテーブル

テーブル１　【課題研究委員会企画】学士課程教育における共通教育の質保証
—直接評価と間接評価の開発と統合について—

会　場：C10

企画者：松下　佳代（京都大学）、山田　礼子（同志社大学）

趣　旨：本学会の課題研究「学士課程教育における共通教育の質保証」は、「1. 共通教育における学習成果の直接評価」「2. 数理科学分野における共通教育の質保証」「3. 共通教育における学習成果の間接評価」「4. 共通教育における質保証のためのマネジメント」の 4 つのサブテーマからなる。今回は、サブテーマ１と３の研究計画と進捗状況について報告する。サブテーマ１からは、新潟大学歯学部の PBL テュートリアルでの評価開発および「授業用学習調査」について、サブテーマ３からは、「大学生学習調査 2013 年（JSLS2013）」の内容および千葉大学での実施結果について発表する。また、直接評価と間接評価の相関について、米国における研究のレビューを行う。

テーブル２　【課題研究委員会企画】ＦＤの実践的課題解決のための重層的アプローチ
：カリキュラム改革のケーススタディ

会　場：C11

企画者：佐藤　浩章（大阪大学）、井上　史子（帝京大学）、沖　裕貴（立命館大学）、加藤　かおり（新潟大学）、近田　政博（神戸大学）、山内　尚子（京都産業大学）、山田　剛史（愛媛大学）

趣　旨：本ラウンドテーブルでは、これまでＦＤを重層的なアプローチで分析してきた。今回はミドルレベルのＦＤの事例として、カリキュラム改革に成功した二大学のケーススタディを行う。事例を通して、カリキュラム改革にＦＤ担当者がどのように介入できるかその方法を探る。

テーブル３　発達障害学生への学生支援・大学教育の役割

会　場：C12

企画者：青野　透（金沢大学）、大島　啓利（広島修道大学）、片岡　美華（鹿児島大学）、加藤　洋子（首都大学東京）、橋場　論（福岡大学）、望月　由起（お茶の水女子大学）、山中　淑江（立教大学）

趣　旨：日本学生支援機構平成 24 年度調査によれば、大学等に「発達障害（診断書有）学生 1,878 人」「発達障害（診断書無・配慮有）学生 2,746 人」が在籍する。506 校の支援は、「学習指導（履修方法、学習方法等）」（54.3%）「保護者との連携」（54.0%）、「臨床心理士等によるカウンセリング」（52.2%）、「社会的スキル指導（対人関係、自己管理等）」（43.7%）、「進路・就職指導」（35.2%）、「休憩室の確保」（17.6%）「実技・実習配慮」（16.4%）等である。発達障害学生の存在を前提とした環境整備が求められ、障害者差別解消法により個別の合理的配慮も義務となる。教員、職員、カウンセラーの会員の報告に基づく議論を行い、課題アプローチ方略を明らかにする。

テーブル４　IRの学修・学生支援への活用

会　場：S12

企画者：藤木　清（関西国際大学）、濱名　篤（関西国際大学）森　朋子（島根大学）

趣　旨：文部科学省の大学間連携共同教育推進事業「主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築」は、関西国際大学を代表校として、本学会にステークホルダーを引き受けていただき、貴学会及び会員有志からの専門的な立場からの助言及び本事業についての事業評価をお願いしている。本ラウンドでは、その事業の一部として研究開発した、「学生支援型 IR」（学生の成績、学籍情報、統一テスト、学修行動調査の結果を統合し、学修・学生支援に IR をいかにして活用するか）の可能性について、アメリカにおける動向報告と日本での事例報告を材料に意見交換を進める。

テーブル５　失敗学から学ぶ大学教育改革
－中部圏の地域・産業界との連携を通した教育改革力の強化－

会　場：S13

企画者：中川　正（三重大学）、夏目　達也（名古屋大学）

趣　旨：大学間競争が激化する中、大学は自らを教育改革の「成功者」としてアピールすることを通して、大学の魅力を発信する傾向があった。一方で、大学の教育力は、様々な失敗から目をそらさずに分析し、克服する過程で培われるものともいえよう。すなわち、失敗から学ぶ力こそ、教育改革に求められる大学の資質である。文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に採択された中部地域 23 大学は、失敗学の方法論と手法を活用して、教育改革の過程で直面する課題を分析し、共有している。このラウンドテーブルでは、その過程を振り返り、教育改革力を培う失敗学活用の可能性について議論を行う。

テーブル６　一般教育の活性化によって大学再生・発展を―危機をチャンスに変えるために

会　場：S14

企画者：加藤　恒男（元至学館大学）、越前　喜六（上智大学）

趣　旨：一般教育を活性化することが大学の危機から脱出する出発点になるであろう。学生が「就職=修飾活動」と揶揄されるものに振り回される大学・家庭・社会の現実を超えて教育を確立する必要がある。そのためには教育を正しく理解して、学生が学問主体や市民として成長する条件を整備・創出しなければならない。一般教育は全人間的な成長に奉仕するのであり、結論の注入・押し付けではなく、学問的な理解を目指す。一般教育の重視と活性化が大学教育を蘇らせるであろう。教員の献身的な姿勢が教育の核心であることも重要である。一般教育の重視による「大綱化」の再検討を行うなど、過去に拘束されず時代と学生に相応しいあり方を実態報告に基づいて探究する。

テーブル７　保健医療福祉系大学における教養教育の問題（５）
―教養教育の専門性について考える―

会　場：S15

企画者：小野　滋男（北海道医療大学）、堀井　泰明（天使大学）、町田　修三（高崎健康福祉大学）、遠藤　良仁（岩手県立大学）、小関　久恵（東北公益文科大学）、宮本　雅央（群馬医療福祉大学）、山下　匡将（名古屋学院大学）

趣　旨：これまで、われわれは当該課題について、「専門教育と教養教育とのつながり(2010 年)」、「人文社会系教養の意義(2011 年)」、「コア・カリキュラムにおける人文社会系教養の意義(2012 年)」、「多ルート問題と大学の独立性(2013 年)」の視点から検討してきた。その結果、教養教育と専門教育

を統合した教育体制の整備、当該専門科目の成果に対する人文社会系教養の知見からの再審問の必要性、教養教育を科目に還元せずに検討することの意義、大学における専門職養成の意義として教養教育の復権について議論を深めてきた。そこで、今回は、これまでの当該課題に係わる総論的議論の総括として、教養教育の専門性について考えてみたい。

テーブル８　教養教育における批判的思考の育成の検討　－ライティング教育の観点から－

会　場：S16

企画者：井下　千以子（桜美林大学）、井下　理（慶應義塾大学）

趣　旨：学士課程教育の共通基盤となる教養教育において、その要ともなる批判的思考の育成を目指し、入学前教育も含め、学士課程カリキュラムと連動したライティング教育のあり方について、多様な取組をもとに議論することを目的とする。まず、「批判的思考を鍛えるライティング教育」を目指したテキスト『思考を鍛えるレポート・論文作成法【第２版】』(井下,2014)の開発を踏まえ、思考の深まりを支援するライティング指導の具体的な方法を教養教育においていかに展開しているかについて報告する。その上で、報告者の各大学での取組をもとに、ライティング教育が批判的思考の育成と教養教育に、具体的な方策としていかに寄与できるかを議論していきたい。

テーブル９　アクティブラーニングの理念・手法・評価法に関する包括的研究

会　場：S17

企画者：山田　邦雅（北海道大学）、安田　淳一郎（山形大学）、土岐　智賀子（立命館大学）、長谷川　詩織（愛知教育大学）

趣　旨：一般の教員が自発的にアクティブラーニングを導入するためにはどのような情報が必要であろうか。教員は教育の研究者ではないため、論文や専門書を勧めることはできない。一連の方法がまとまっており、かつ刺激やインスピレーションを得られるマニュアルが必要ではないだろうか。本テーブルでは、一般教員が自分の授業をアクティブラーニング化するために必要なことは何かを考えてゆく。大きく分けると(1)アクティブラーニングの理念(2)教員・学生のアクティブラーニングへの理解(3)手法と事例(4)フィードバック法⑤授業の評価法と改善法、があげられるのではないだろうか。誰でも観覧できるマニュアル化をめざし、必要な内容の概要を構成してゆく。

テーブル10　学生の学習効果を高めるフシンセツ授業の実践報告
－教員のための手間と学生のための手間－

会　場：S18

企画者：たなか　よしこ（日本工業大学）、野崎　浩成（愛知教育大学）、河住　有希子（日本工業大学）、小山　義徳（千葉大学）、馬場　眞知子（東京農工大学）

趣　旨：大学全入時代を迎え、大学は社会に出る前の最後の教育機関といえる。一方企業は人的資源に対する教育投資が困難になっている。このような状況では、準備された環境で学ぶ大学時代とは異なり、自ら問題を発見して計画し、状況の変化に応じて計画を変更し、解決できないときには適切なタイミングに適切な人材に助力を求めることが不可欠である。本ラウンドテーブルでは大学教育における親身さの根拠となるものを再確認し、高等教育機関だからこその、教員にとっての効率化と学生が学ぶために必要なフシンセツさを再考する。学習効果を上げるためのフシンセツと、学習効果をあげるための効率化の事例を紹介し、参加者の方と広く意見交換をしたい。

テーブル11　教育の質保証に向けた授業見学者による授業リフレクションの意義

会　場：S19

企画者：筒井　洋一（京都精華大学）、山本　以和子（京都工芸繊維大学）

趣　旨：授業の検証方法として学生による授業評価アンケートがあるが、学生・教員双方に不満を残している。ここでは、教育の質保証に向けた授業見学者による授業リフレクションの意義について論じる。授業途中（例：６週目）への導入は、授業内容の定着状況を確認でき、授業見学者が介在することで、よりよい改善提案が出やすくなる。そこで、まず、リフレクションの概要説明をしてから Midterm Student Feedback の導入事例について述べ、次に主体的学習を見通した学生側のリフレクションの評価手法について論じ、最後に組織と個人双方の評価を視野に入れたビジネス研修の知見を紹介し、今後の授業リフレクション導入の意義について論じる。

テーブル12　質文化形成アプローチからみた各大学の教育づくりの取組

会　場：C20

企画者：池田　輝政（名城大学）、青山　佳代（愛知江南短期大学）、松本　浩司（名古屋学院大学）、中島　英博（名城大学）

趣　旨：昨年度は、ペダゴジーの原理を基盤として教育と学びの質（クオリティ）を大学人自らが議論し設計・開発・研究する質文化形成アプローチの必要性を発信した。確認・共有したアプローチの特徴は、①学生中心の学びの考え方を核にする、②大学人個々の内発性を源とする、③教育の理念・価値観・目標を可視化する方法論となる、④学習者一人ひとりと向き合う教師のアートと実践の原理であるペダゴジーと親和的である、⑤教師自らが授業改善にかかわるアクション・リサーチと適合的である、などの質の多様性と多元性を包容する嚮導概念としての位置づけであった。今年度はこの観点を踏まえ、さまざまな取組事例の実践と特徴と課題について議論してみる。

テーブル13　学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅴ　－今、必要とされる教職員のミッション・パッション・アクション

会　場：C21

企画者：米田　敬子（文教大学）、高橋　真義（桜美林大学）、菊地　勇次（文部科学省）、中村　拓昭（九州産業大学）、十河　功一（九州共立大学）、杉森　公一（金沢大学）

趣　旨：大学は，大学の資産であり主役である学生をいかに活かすが問われている。多様な学生の持てる能力を発揮させ、学生のモチベーションを高めるには、教職員は自分自身のミッション･パッション･アクションを学生に伝えることの意義は大きい。本ラウンドテーブルでは、教員の言葉、「職員先生」として授業に登壇した大学職員などから、効果的であった事例を発表する。参加者とグループワークにより、学生が目を輝かせる大学教育の新たな可能性を探ることとする。

テーブル14　教養教育の本流　－教養教育は生き残れるか－

会　場：C22

企画者：児玉　英明（京都三大学教養教育研究・推進機構）、林　哲介（京都大学）、吉永　契一郎（東京農工大学）、東谷　護（成城大学）、阿部　勘一（成城大学）、渡辺　かよ子（愛知淑徳大学）、橋爪　孝夫（山形大学）

趣　旨：本ラウンドテーブルの問題意識は、近年の教養教育をめぐる議論がジェネリックスキルの養成という側面を過度に重視しそれを測定しようとするがあまり、戦後間もなくのころ議論された教養教育の源流にあたる諸研究の蓄積が抜け落ちているのではないかというものである。日本学術会議『21 世紀の教養と教養教育』に示されているように、教養教育の究極の目標は民主的社会とその豊かな展開を担う民主的市民の形成であった。しかし、いつのまにかその目標は後景に退き、より実践的・実用的な観点が重視されるという様相を呈している。本ラウンドテーブルでは教養教育の本流を踏まえながら、教養教育の不易と流行を本音で語り合う場としたい。

テーブル15　一般教育の知的遺産を活かす（その６）

会　場：C30

企画者：志津木　敬（広島大学）、竹下　賢（関西大学）、山本　伸也（関西学院大学）、小林　勝法（文教大学）

趣　旨：フィードバック評価は，1988 年度から 1997 年度にかけての第 6 課題研究「大学の自己評価の方法」において取り上げられました．本学会の研究対象が大学教育全般に広がった契機とされています．しかしいわゆる評価は，一般教育と共に導入されました．フィードバック評価は，一般教育を介して理解する必要性を示唆する知的遺産といえるでしょう．今回，取り上げる外国語と保健体育は一般教育等に属する領域ですが，一般教育を介して理解する必要性を示唆する領域にほかなりません．多くの先生方のご参加をお待ち申し上げます．

テーブル16　学生と楽しむ大学教育

会　場：C31

企画者：清水　亮（神戸学院大学）、橋本　勝（富山大学）

趣　旨：FD が義務化され、早や 7 年、2011 年度からはキャリア教育も義務化されている。大学で、改革

の成果が上がっているのかと問われ、首を縦に振れる大学コミュニティの構成員は、どれだけいるのだろうか。今、日本の大学に求められているのは、号令一下、護送船団方式で、自らの大学の現状を直視することなく、取りあえず号令遵守という作文をすることではない。それぞれの大学が置かれている状況、大学コミュニティの構成員間の関係・ケミストリーを踏まえて、「学びの主権者」である学生の主体的な学びを推進できる教育体制を構築すること、教育を後ろから支えるだけではなくもっと有機的な教職協働を実現して職員の力を最大限に活かすことではなかろうか。

テーブル17　リベラル・アーツ教育における環境・生命・安全・防災をテーマとした教育

会　場：C32

企画者：内山　弘美（大学非常勤講師）、杉本　孝作（四国学院大学）、丸山　和昭（福島大学）、城下　英行（関西大学）、小暮　克哉（東京理科大学）

趣　旨：本企画は、2011 年のラウンドテーブル「教養教育としての大学の環境教育の多様性-文系学生のサイエンティフィック・リテラシーを中心に-」の続編である。今回は前回の報告で提示された 6 つの論点を中心に議論を進める。さらに（特に理系学生に必要とされる）社会リテラシーの視点も入れる。また 3.11 後の教育として必要不可欠な、生命・安全・防災の教育も対象とする。今回も実践報告を中心に行い、科学史・科学コミュニケーション関連領域の視点によるコメントが特徴である。

12：00～13：00　昼食

13：00～13：50　総会

会 場：豊田講堂

13：50～14：10　休憩

14：10～15：30　基調講演

会 場：豊田講堂
演 題：現代社会を生きるための教養と大学教育
講 師：亀山　郁夫 氏（名古屋外国語大学・学長）
司 会：小笠原　正明（学会長）

15：30～15：45　休憩

15：45～18：00　公開シンポジウム「大学教育改革につながる実践的知識の共有」

会 場：豊田講堂

趣旨説明・司 会：	夏目　達也　（名古屋大学）
報告１　FD・SD 教材作成の立場から	中井　俊樹　（名古屋大学）
報告２　障がいのある学生の支援の立場から	青野　透　　（金沢大学）
報告３　アカデミック・ライティング教育の立場から	佐渡島　紗織（早稲田大学）

18：15～20：00　情報交換会

会 場：豊田講堂

6月1日（日）

9：00～　　受付

9：30～12：00　自由研究発表Ⅰ

（○は登壇者）

部会１　教育方法・授業改善（１）
会 場： S10
司 会： 井上　史子（帝京大学）、圓月　勝博（同志社大学）
9:30～9:50　通常講義科目におけるレポート作成指導（2）―「環境経済学」8年間の総括―
○山本　英司（奈良産業大学）
9:50～10:10　大学生を対象とした自己表現トレーニングの効果
○冨永　敦子（早稲田大学）、五十嵐　美華（早稲田大学、非会員）、
柄本　健太郎（東京学芸大学大学院、非会員）、向後　千春（早稲田大学）
10:10～10:30　TOEIC 問題集を使って社会人に必要な言語力と思考力を育てる
○間中　和歌江（東京純心女子大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　センター間連携による医療系学部・学科における初年次教育の試み
－学生の汎用的技能の育成を目指した多職種連携教育（IPE）の導入－
○井上　史子（帝京大学）、井上　真智子（帝京大学、非会員）
11:00～11:20　コミュニケーション学の「知識」と「実践」の「統合」をめざして
－聴く力を活かした基礎学力と社会力向上のための試み－
○穐田　照子（桜美林大学）
11:20～11:40　学習意欲・プレゼン力・教職意識を育成する＜学生主体のグループ学習＞に関する実践研究－震災・原発問題後の福島の学校と教師が直面する課題から学ぶ教職科目「課程論」平25(2013)履修学生の体験と成長－
○小島　勇（東京電機大学）、○立川　琢也（東京電機大学）、
佐藤　桂輔（東京電機大学）、戸塚　理一（東京電機大学）、
栗原　大　（東京電機大学、非会員）
11:40～12:00　総合討論

部会２　教育方法・授業改善（３）
会 場： S11
司 会： 佐藤　浩章（大阪大学）、筒井　洋一（京都精華大学）
9:30～9:50　大学生における自分史作成のきっかけ作りとしてのロールレタリングの導入
○佐瀬　竜一（常葉大学）
9:50～10:10　演劇創作を取り入れたプロジェクト学習の効果検証
～岐阜県美濃加茂市・早稲田大学文化推進部の文化交流協定を事例として～
○大前　研二（早稲田大学）
10:10～10:30　主体的な学びへの転換に向けた高大連携への試みとその意義
○松田　淑子（福井大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　アクティブラーニングとしての学生による本づくりの実践と展望
～大阪大学ショセキカプロジェクトの挑戦～
○中村　征樹（大阪大学）、松行　輝昌（大阪大学、非会員）
11:00～11:20　実践・継続型 PBL における成果と課題
○古賀　暁彦（産業能率大学）

11:20～11:40　多様なステークホルダーが相互に連携したアクティブラーニング授業
―越境する拡張的学習(Y.Engestrom)の事例として―
○筒井　洋一（京都精華大学)、大木　誠一（神戸国際大学附属高校）
11:40～12:00　総合討論

部会３　教育方法・授業改善（５）
会 場：S1X
司 会：秦　敬治（愛媛大学)、安岡　高志（立命館大学）
9:30～9:50　新授業評価アンケートの開発および授業改善のための評価結果の活用に向けた取り組み
○中嶋　清香（東海大学)、緒方　道郎（東海大学)、
石原　良美（東海大学)、内田　晴久（東海大学)、
吉川　政夫（東海大学、非会員)、有沢　孝治（東海大学、非会員）
9:50～10:10　授業アンケート結果活用の一つの方向性
○安岡　高志（立命館大学)、沖　裕貴（立命館大学）
10:10～10:30　授業実践の語りを「訊く」ということ
○齊尾　恭子（関西大学)、○竹中　喜一（関西大学)、
三浦　真琴（関西大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　カリキュラム評価による授業改善
○野村　幸代（茨城大学)、飯村　文香（茨城大学、非会員）
11:00～11:20　カリキュラム・アセスメントの試み－愛媛大学の事例から－
○秦　敬治（愛媛大学)、清水　栄子（愛媛大学）
11:20～11:40　総合討論

部会４　教職員能力開発
会 場：C23
司 会：佐々木　一也（立教大学)、佐藤　龍子（静岡大学）
9:30～9:50　PFFP を通じたファカルティになるための意識の変化と能力の獲得
：京都大学文学研究科プレ FD プロジェクトを対象に
○畑野　快（京都大学)、田中　一孝（京都大学、非会員)、
○田口　真奈（京都大学）
9:50～10:10　東大へのプレ FD プログラムの導入と評価
○栗田　佳代子（東京大学)、中原　淳（東京大学）
10:10～10:30　ポートフォリオ作成におけるメンタリング質保証の方法
○吉田　塁（東京大学)、栗田　佳代子（東京大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　SD の実践的指導者（SDC）育成プログラムの開発
～大学教職員能力開発拠点の取り組みから～
○阿部　光伸（愛媛大学)、仲道　雅輝（愛媛大学）
11:00～11:20　大学における組織開発（OD）の意義と可能性に関する一考察
－大学共創プロジェクトによる実践を通して－
○林　透（山口大学)、河島　広幸（北陸先端科学技術大学院大学、非会員）
11:20～11:40　全国技術系職員調査結果から考察する技術職員の SD 活動
○安原　裕子（静岡大学)、○佐藤　龍子（静岡大学)、
遠山　紗矢香（静岡大学、非会員）
11:40～12:00　総合討論

部会５　教養教育
会 場　C25
司 会　飯吉　弘子（大阪市立大学）、山地　弘起　（長崎大学）
9:30～9:50　吉野源三郎『君たちはどう生きるか』に学ぶ教養教育論の規範
○児玉　英明（京都三大学教養教育研究・推進機構）
9:50～10:10　修養の現在と教養の意味
○加藤　恒男（元至学館大学）
10:10～10:30　教養教育の目標整理と授業設計支援　―長崎大学での試み―
○山地　弘起（長崎大学）、川越　明日香（長崎大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　高度教養教育の展望と課題
○山邉　昭則（東京大学）
11:00～11:20　教員養成系大学・学部のリベラルアーツ教育の類型化
○内山　弘美（大学非常勤講師）
11:20～11:40　総合討論

部会６　学生支援・学習支援（１）
会 場：S20
司 会：於保　幸正（広島大学）、皆本　晃弥（佐賀大学）
9:30～9:50　日本大学理工学部パワーアップセンターの取り組みと近年の学習支援効果
○伴　周一（日本大学）、中川　浩（日本大学）、
中村　文紀（日本大学）、小林　正史（日本大学）、
小泉　公志郎（日本大学）、山本　寛（日本大学、非会員）
9:50～10:10　大学生の奨学金返済不安にかかわる要因分析 ―家族関係資源を補完する大学の役割―
○正保　正恵（福山市立大学）、竹田　美知（神戸松蔭女子学院大学）、
山下　美紀（ノートルダム清心女子大学、非会員）、大石　美佳（鎌倉女子大学、非会員）
10:10～10:30　図書館スタッフによる学修支援の実践、および事後評価
～「プレゼン入門：話す基本技術」～
○久保山　健（大阪大学）、堀　一成（大阪大学）、
坂尻　彰宏（大阪大学、非会員）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　初年次学生に学生のピア関係がもたらす効果
○宮橋　小百合（四国学院大学）
11:00～11:20　ラーニング・ポートフォリオを活用した学生支援の効果
○山内　一祥（佐賀大学）、藤井　俊子（佐賀大学、非会員）、
皆本　晃弥（佐賀大学）、滝澤　登（佐賀大学、非会員）
11:20～11:40　総合討論

部会７　IR（１）
会 場：S21
司 会：高橋　哲也（大阪府立大学）、山田　剛史（愛媛大学）
9:30～9:50　愛媛大学・教学 IR プロジェクトによる実践事例
－教学データを活用した教育改善に向けて－
○清水　栄子（愛媛大学）、山田　剛史（愛媛大学）
9:50～10:10　日本福祉大学における教学 IR の展開と課題
○倉掛　崇（日本福祉大学）
10:10～10:30　推測統計を用いた教学支援に関する試み
○松宮　慎治（神戸学院大学）、清水　寛之（神戸学院大学、非会員）

10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　学習成果アンケートの活用可能性（２）
○後藤　康志（新潟大学）、濱口　哲（新潟大学）、
鳴海　敬倫（新潟大学、非会員）、佐藤　孝（新潟大学、非会員）
11:00～11:20　金沢工業大学における法人・教員・職員協同型 IR による修学指導について
○西村　秀雄（金沢工業大学）
11:20～11:40　総合討論

部会８　学士課程教育（１）
会 場： S2X
司 会： 川嶋　太津夫（大阪大学）、久保田　祐歌（愛知教育大学）
9:30～9:50　入学した大学で就業力が身に付くと学生は実感しているか
― 企業人・学生意識調査結果から考える高大接続の在り方 ―
○三保　直樹（㈱進研アド）、神田　裕子（㈱進研アド、非会員）
9:50～10:10　グローバル・エンジニア養成のための海外学生派遣プログラムに関する考察
－全学的な教育目標体系に照らした事前・事後学習開発を中心に
○宮浦　崇（九州工業大学）、水井　万里子（九州工業大学、非会員）、
アプドゥハン恭子（九州工業大学、非会員）、大野瀬津子（九州工業大学、非会員）
10:10～10:30　米国高等教育のコンピテンシー基盤型教育をめぐる改革動向と課題
○野田　文香（大学評価・学位授与機構）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　東日本大震災の復興支援活動と振り返り（リフレクション）が、学生に与えた影響（インパクト）
○市川　享子（明治学院大学）
11:00～11:20　サービス・ラーニングにおける地域の教育力と学生の学習成果に関する研究
○木村　充（東京大学大学院）、河井　亨（立命館大学）
11:20～11:40　学士力育成におけるリテラシーの統合
○水町　龍一（湘南工科大学）、久保田　祐歌（愛知教育大学）
11:40～12:00　総合討論

部会９　学習成果の測定と活用
会 場： S2Y
司 会： 串本　剛（東北大学）、溝上　慎一（京都大学）
9:30～9:50　クリティカルシンキングの「日本版 VALUE ルーブリック」開発のための基礎的研究
○小林　祐也（関西大学大学院）
9:50～10:10　大学生の「学習に関する時間的展望」についての調査研究―学習成果との関連の検討
○河井　亨（立命館大学）
10:10～10:30　「情報リテラシ」教育における能力別クラス分けによる教育効果
○中田　美喜子（広島女学院大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　文科系学生に対するタイピング指導を通じた教育効果の分析
○廣渡　栄寿（北九州市立大学）、浅羽　修丈（北九州市立大学）、
佐藤　貴之（北九州市立大学、非会員）、中尾　泰士（北九州市立大学、非会員）、
岩田　一男（北九州市立大学、非会員）
11:00～11:20　アクティブラーニング型授業における授業構造と学習成果の関係
○尾澤　重知（早稲田大学）、森　裕生（早稲田大学、非会員）、
江木　啓訓（神戸大学、非会員）

11:20～11:40　成績評価方法と学習経験

○串本　剛（東北大学）、渡辺　雄貴（首都大学東京）、
林　祐司（首都大学東京、非会員）

11:40～12:00　総合討論

12：00～13：00　昼食

13：00～15：00　自由研究発表Ⅱ

（○は登壇者）

部会 10　教育方法・授業改善（２）

会 場： S10

司 会： 川島　啓二（国立教育政策研究所）、久田　晴生（大同大学）

13:00～13:20　異学科間交流による主体的学習の促進

○佐藤　広子（目白大学）

13:20～13:40　学生の既存の言語技能をフルに活用させるコミュニケーションスキルの育成
―英語と国語／理論と実践―

○西岡　亜紀（東京経済大学）、○村山　真理（お茶の水女子大学）

13:40～14:00　ブレディッドラーニングによる日本語リテラシー教育の展開

○秋山　英治（愛媛大学）、○仲道　雅輝（愛媛大学）

14:00～14:20　スペインバスク地方の CLIL 型学習からの日本の大学英語教育への示唆

○中西　千春（国立音楽大学）、中西　穂高（帝京大学、非会員）、
若山　昇（帝京大学）

14:20～14:40　他者と出会う授業を求めて

○久田　晴生（大同大学）

14:40～15:00　総合討論

部会 11　教育方法・授業改善（４）

会 場： S11

司 会： 向後　千春（早稲田大学）、橋本　勝（富山大学）

13:00～13:20　学生間の相互刺激を活用し、主体的な学びの推進へ：橋本メソッド活用法

○清水　亮（神戸学院大学）

13:20～13:40　参加型授業における大学生の成長－グループワークを通して培う「学生力」－

○高橋　真義（桜美林大学）、米田　敬子（文教大学）

13:40～14:00　環境研究のダイナミズム～アクティブラーニングの実践と学生の学び～

○布柴　達男（国際基督教大学）

14:00～14:20　“自問自答”から始めて多様な意味付けを試みる－考え巡らすことの習練

○飯野　幹夫（国立音楽大学）

14:20～14:40　反転授業を実施するための工夫：オンデマンドビデオとグループワークの設計とその連携

○向後　千春（早稲田大学）、石川　奈保子（早稲田大学大学院、非会員）

14:40～15:00　総合討論

部会 12　教育方法・授業改善（６）

会 場： S1X

司 会： 池田　輝政（名城大学）、杉谷　祐美子（青山学院大学）

13:00～13:20　学生討議型授業コンサルテーションの取り組みと効果に関する一考察

○吉田　博（徳島大学）、金西　計英（徳島大学）

13:20～13:40　主体的な学びの確立のためには授業のパラダイムシフトが不可欠

～受講生のアンケート調査から～

○木野　茂（立命館大学）、田中　翔（立命館大学、非会員）

13:40～14:00　学生・教職員交流型イベントの FD 機能に関する研究

－大阪大学における「ひとこといちば」の取り組みを題材として－

○服部　憲児（京都大学）

14:00～14:20　ラベル図解による学びの見える化

○長谷川　伸（関西大学）

14:20～14:40　大学教師に問われるもう一つの研究力：授業研究

○池田　輝政（名城大学）

14:40～15:00　総合討論

部会 13　大学組織・運営

会 場： C23

司 会： 小田　隆治（山形大学）、米澤　彰純（名古屋大学）

13:00～13:20　「地（知）の拠点整備事業」に関する研究

○原田　健太郎（徳島大学）

13:20～13:40　「新たな大学教育プロバイダー」の教員に関する研究―ビジネススクールを中心に―

○戸田　千速（東京大学大学院）

13:40～14:00　米国大学による卒業生組織化戦略：スタンフォード大学をてがかりに

○江原　昭博（関西学院大学）

14:00～14:20　「教育改善」を巡る諸概念の二つの思想的源泉

○須長　一幸（福岡大学）

14:20～14:40　英国における大学経営者養成の発展と現在

○米澤　彰純（名古屋大学）

14:40～15:00　総合討論

部会 14　ライティング

会 場： C25

司 会： 井下 千以子（桜美林大学）、三浦　真琴（関西大学）

13:00～13:20　全学出動体制を目指したアカデミック・ライティング指導と関連 FD の取り組み

○堀　一成（大阪大学）、坂尻　彰宏（大阪大学、非会員）

13:20～13:40　初年次教育における「パーソナル・ライティング」導入の意義

○谷　美奈（帝塚山大学／京都大学大学院）

13:40～14:00　現在日本の学校教科書で教えられる論証的ライティング：高大接続の視点から

○渡辺　哲司（文部科学省）

14:00～14:20　学科カリキュラムでの和文作文法教育科目必修化とその効果

○倉茂　好匡（滋賀県立大学）

14:20～14:40　Active writing を目指す試み

○三浦　真琴（関西大学）

14:40～15:00　総合討論

部会 15　学生支援・学習支援（２）

会 場： S20

司 会： 岩崎　千晶（関西大学）、沖　裕貴（立命館大学）

13:00～13:20　分散キャンパス、高低差 100 メートルの神戸大学流ラーニングコモンズの構築に向けて
○郷原　正好（神戸大学）

13:20～13:40　学生寮「お茶大 SCC」における活動実践と成果
○北澤　泰子（お茶の水女子大学）、○望月　由起（お茶の水女子大学）

13:40～14:00　大学図書館と学習支援－利用者アンケートをとおした日米比較
○村上　孝弘（龍谷大学）

14:00～14:20　学生の主体的な学びを支援する授業外講座：甲子園大学「ステップアップ講座」
○西川　真理子（甲子園大学）

14:20～14:40　正課学習と課外活動を支えるコラボレーション・コモンズのデザインと利用状況の分析
○岩崎　千晶（関西大学）、杉浦　友美（関西大学、非会員）、
山本　敏行（関西大学、非会員）

14:40～15:00　総合討論

部会 16　IR（２）

会 場： S21

司 会： 石本　雄真（立命館大学）、橋本　健夫（長崎大学）

13:00～13:20　学習における消費者意識と学習成績との関係性について-地方短期大学の卒業生調査より-
○杉原　亨（鈴鹿国際大学）

13:20～13:40　新入生プロフィールによる入学者受入れ方針の検討―新入生調査(JFS)の可能性と課題―
○相原　総一郎（愛知教育大学）

13:40～14:00　正課外活動における経験と大学生の学びとの関連
○石本　雄真（立命館大学）、河井　亨（立命館大学）、
鳥居　朋子（立命館大学）、辰野　有（立命館大学、非会員）、
小野　勝大（立命館大学、非会員）

14:00～14:20　佐賀大学版ＩＲの影響機能とその効果
○西郡　大（佐賀大学）、末次　剛健志（佐賀大学、非会員）、
北島　博文（佐賀大学、非会員）、木塚　徳男（佐賀大学、非会員）、
皆本　晃弥（佐賀大学）

14:20～14:40　初習外国語の授業改善に向けた教育 IR の活用（Ｉ）
橋本　健夫（長崎大学）、○劉　卿美（長崎大学）、
川越　明日香（長崎大学）

14:40～15:00　総合討論

部会 17　学士課程教育（２）

会 場： S2X

司 会： 小川　勤（山口大学）、細川　敏幸（北海道大学）

13:00～13:20　準正課教育に関する一考察-実践事例からの成果に着目して-
○黒田　友貴（愛媛大学大学院）

13:20～13:40　日本の大学における正課外教育プログラムについての研究－アンケート調査からの考察－
○大竹　秀和（立教大学）、○諏佐　賢司（東京大学）

13:40～14:00　現代アメリカにおけるラーニング・コミュニティ論の展開
―ラーニングの主体に注目して―
○間篠　剛留（慶應義塾大学大学院）

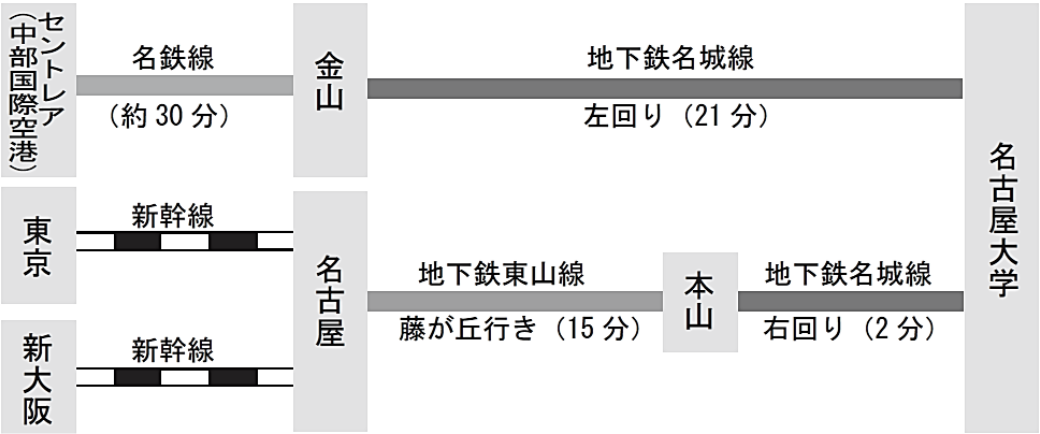
14:00～14:20　成績評価の「厳格化」と「透明化」―信州大学の GPA 制度がめざすもの―
○加藤　鉱三（信州大学）、○加藤　善子（信州大学）、
雨森　聡（信州大学）
14:20～14:40　共通教育のカリキュラム改革後の成果と課題に関する研究
○小川　勤（山口大学）
14:40～15:00　総合討論

部会 18　リーダーシップ・キャリア教育
会 場：　S2Y
司 会：　羽田　貴史（東北大学）、村上　正行（京都外国語大学）
13:00～13:20　新規学卒者の採用を目的とする心理検査の歴史的展開―総合検査 SPI に着目して
○二宮　祐（岡山大学）
13:20～13:40　長期インターンシップを通じた学生の成長　―PAC 分析を中心とした効果測定の試み―
○三保　紀裕（京都学園大学）、山本　理恵（京都学園大学、非会員）、
宮嶋　恒二（京都学園大学、非会員）
13:40～14:00　リーダーシップ・アイデンティティとその発達過程に関する考察
○泉谷　道子（松山大学）、岸岡　洋介（京都外国語大学）、
○安野　舞子（横浜国立大学）
14:00～14:20　学生・教職員の学びを促進するリーダーシップ教育を通じた
「能力開発手法」に関する考察
○岸岡　洋介（京都外国語大学）、山中　亮（愛媛大学、非会員）、
林　真輝（愛媛大学）、村田　晋也（九州国際大学、非会員）、
松岡　陽子（山口大学、非会員）、泉谷　道子（松山大学）、
○鈴木　理絵（九州国際大学）、奥村　恵美子（広島経済大学、非会員）、
山内　一祥（佐賀大学）、秦　敬治（愛媛大学）
14:20～14:40　リーダーシップ養成を目指したセミナーのデザイン
○村上　正行（京都外国語大学）、岸岡　洋介（京都外国語大学）、
中嶋　大輔（京都外国語大学、非会員）、高島知佐子（京都外国語大学、非会員）
14:40～15:00　総合討論

大会参加要領

1. 大会会場へのアクセス

＜名古屋大学東山キャンパスへのアクセス＞



※所要時間は交通状況により異なります。

・ 中部国際空港より　名鉄空港線特急列車で金山駅へ。同駅にて、地下鉄名城線（左回り）に乗り換え、名古屋大学駅下車。所要時間約１時間。

・ 新幹線名古屋駅より　地下鉄東山線（藤が丘行き）で本山駅へ。同駅にて、地下鉄名城線（右回り）に乗り換え、名古屋大学駅下車。所要時間約25分。

※ 駐車スペースが限られていますので、公共交通機関をご利用ください。

＜全学教育棟・豊田講堂へのアクセス＞

2. 参加申し込みについて

学会ホームページ＞「大会・集会」ページ＞左メニューにある「大会参加申し込み」よりお申し込みください。

【参加費用一覧】

費用項目		申込日	
		5月9日(金)までの事前支払	**大会当日**
参加費	**会員・一般**	5，000円	6，000円
	学生	2，000円	3，000円
情報交換会費	**会員・一般**	4，000円	5，000円
	学生	2，000円	3，000円
『要旨集』のみ希望		2，000円（送料込）	
6月1日（日）のお弁当代		1,000円（お茶付、税込）	

●参加にかかる合計金額（情報交換会参加・お弁当申込の場合は、情報交換会費・お弁当代を含む）を5月9日(金)までに郵便局等からお振り込み下さい（振込手数料はご負担下さい）。ご送金人氏名と参加申込人氏名は同一でお願いします。
なお、要旨集費（2,000円）は、大会に参加されず『要旨集』のみご希望の方が対象です。

●振替口座は5月9日の入金を待って閉鎖します。5月10日以降に申し込みをされる方は、大会当日（5月31～6月1日）に受付にてお支払いください。

●支払方法は次の通りです（振替口座は5月9日の入金を待って閉鎖します）。
1. 郵便局から
ニュースレターに同封または郵便局に備え付けの払込取扱票、ATMにより以下へお振込下さい。
口座記号番号：00880-9-124628
加入者名： 大学教育学会2014年度大会実行委員会（ダイガクキョウイクガッカイニセンジュウヨネンドタイカイジッコウイインカイ）

2. 郵便局以外の金融機関から
銀行名(金融機関コード)：ゆうちょ銀行（9900）
店名（店番）：〇八九（089）
預金種目：当座
口座番号：0124628
加入者名：大学教育学会2014年度大会実行委員会（ダイガクキョウイクガッカイニセンジュウヨネンドタイカイジッコウイインカイ）

大学教育学会 2014 年度課題研究候補選定について

2014 年 4 月 1 日

課題研究候補選定委員会

2014 年度の課題研究候補について、会員の皆さんに進行状況を報告します。

１．経緯

所定の期日までに、「発達障害学生への学生支援・大学教育の役割」（代表者青野透、以下「発達障害」）、「アクティブ・ラーニングの理念・手法・評価法に関する包括的研究」（代表者山田邦雅、以下「AL 研究」）の 2 件が申請されました。検討した結果、いずれも先行研究を踏まえての研究課題が明確でないため、先行研究の到達点と課題研究として取り組む課題を明らかにすること、及び研究課題を解くための方法の提示を求め、再提出して頂きました。

また、「発達障害」の申請代表者が課題研究候補選定委員会であったため、審査に加わらず、オブザーバーとして山内副会長が参加することになりました。再提出申請書に対し、「大学教育学会課題研究の選定に関する内規」中、審査の選定基準「(1) テーマの学術的重要性・妥当性　(2) テーマの実践的重要性・妥当性　(3) 研究計画・方法の新規性・妥当性　(4) 研究計画と課題の独創性　(5) 研究成果の波及性・応用性　(6) 学会の課題研究としての妥当性　(7) 他の研究経費による支援の有無　(8) 研究遂行能力の妥当性」の各項目について 4 段階の評定（４=特によい　３＝よい　２＝ふつう　１＝劣る）をあらかじめ行い、これらの資料をもとに、スカイプ会議を行い、検討しました。

２．審査結果

審査結果、(1) テーマの学術的重要性・妥当性、(2) テーマの実践的重要性・妥当性、(5) 研究成果の波及性・応用性、(7) 他の研究経費による支援の有無は、ほぼ同程度の評価となりましたが、(3) 研究計画・方法の新規性・妥当性、及び (4) 研究計画と課題の独創性は、「発達障害」については、合理的配慮についての具体的な研究計画が明確でないことなどの弱点が指摘されたものの、「AL 研究」が 3 つ挙げられている研究課題相互の関係とそれぞれの分析手法が明確でないことが低く評価されました。(6) 学会の課題研究としての妥当性について、研究組織が一部の大学に集中していること、(8) 研究遂行能力の妥当性について、予算、人的資源に比べ計画が大きすぎること、研究組織と研究計画との齟齬があることなどの課題から、「AL 研究」が低く評価されました。以上、個々の項目の評定結果を総合し、「発達障害」を課題研究として推薦し、計画の補強と学会員への公募による研究組織の強化を行う条件を付し、3 月 29 日の常任理事会に報告・了承されました。今後、修正を加えた計画書は、5 月 30 日の理事会で最終的に決定されることになります。

また、「AL 研究」は、テーマ自体は重要でありながら、十分に練りこまれた計画になっていないと判断され、残念ながら見送ることにしましたが、課題研究候補選定委員会において、助言的なコメントを整理し、審査結果とともに送付することにしました。

今後とも課題研究の推進に会員諸氏のご協力をよろしくお願いします。

以上

大学教育学会員各位　　2014年4月4日

「発達障害学生への学生支援・大学教育の役割」課題研究　研究代表者・大学教育学会常任理事
青野　透

大学教育学会「発達障害学生への学生支援・大学教育の役割」課題研究委員会研究メンバー募集

大学教育学会では、2014年6月からの新たな課題研究として「発達障害学生への学生支援・大学教育の役割」を設置する予定となっています。大学教育における学生支援のあり方は、近年、本学会で注目を集めている重要なテーマであり、2011年度から2013年度まで「現代における学生支援の課題と展望　」　（研究代表者：川島啓二）が実施されました。本課題研究は、そこで始まった日本学生相談学会との連携も継承しながら、学生支援のうち、発達障害学生への支援・配慮に焦点をあてて、3年間取り組むものです。

この度、「大学教育学会2014年度課題研究候補選定について 2014年4月1日　課題研究候補選定委員会」において、「学会員への公募による研究組織の強化」が必要であるとのご指摘がありました。そこで、テーマの重要さに鑑み、学会員の英知を広く結集するため、別紙企画書（案）の研究組織メンバーに加え、新たに研究メンバーを公募いたします。特に、発達障害学生に対する合理的配慮を、大学教育としての質保証の観点からどのように行うべきか、その範囲はどの程度かが、研究として重要であり、海外の事例研究など多様な研究推進のための研究メンバーを求めます。

奮ってご応募のほど、よろしくお願いします。

募集人数	5名程度
研究課題	発達障害学生への学生支援・大学教育の役割
専門分野	カリキュラム、教育内容・方法、教育評価・学習評価、修学支援、就職支援、特別支援教育のいずれか
応募資格	大学教育学会員であり、専門分野の業績に基づき研究課題に関して取り組む意欲のある方
公募期間	2014年4月7日（月）～4月30日（水）
応募方法	以下の申請要領に従い必要事項を記した文書（word）を作成し、期間内に、研究代表者 青野　透　宛て　aono@staff.kanazawa-u.ac.jp　　電子メール添付にて送付のこと。
注意事項	すでに大学教育学会の他の課題研究委員会のメンバーになっておられる方は、応募をご遠慮ください。
審査方法	企画書（案）の研究組織メンバーによる審査

【申請要領】　　※いただいた個人情報はこの件に関してのみ使用し、適正に処理します。

電子メールの件名　：　大学教育学会課題研究メンバー応募

電子メールに添付する文書（word）に記載する事項

1. 氏名（ふりがな）
2. 大学教育学会会員番号
3. 所属と職名
4. 担当希望テーマ（①～④から選択）
   - ① 発達障害学生への合理的配慮とカリキュラムおよび教育の質
   - ② 発達障害学生への修学支援
   - ③ 発達障害学生への就職支援および就労継続支援
   - ④ 発達障害を中心とした特別支援教育と大学教育
5. 専門分野
6. 主要業績3本（著者、論文名、雑誌名または書籍名、発行年、掲載ページ）
7. 科研費等競争的資金獲得の実績
8. 連絡先（メールアドレス、住所、電話番号）

大学教育学会課題研究企画書（案）

2014 年 4 月 4 日

１、　**課題研究名称**　発達障害学生への学生支援・大学教育の役割

２、　**研究代表者**　　青野　透　　金沢大学（常任理事）

３、　**研究組織**

氏　名（会員番号）	職　名	専門分野	所　属	役　割
青野　　透 (1859)	教　授	学生支援	金沢大学 大学教育開発・支援センター	研究統括
大島　　啓利 (2952)	専任カウンセラー	臨床心理学・学生相談	広島修道大学　学生相談室	学生相談分野
片岡　　美華 (2221)	准教授	特別支援教育	鹿児島大学教育学部	特別支援教育、諸外国の事例
加藤　　洋子 (2011)	学生支援専門員	学生支援	首都大学東京 学生サポートセンター	障害学生支援事務および教学
橋場　　論 (2490)	講　師	学生支援	福岡大学　教育開発支援機構 教育 FD 支援室	学生支援と FD
望月　　由起 (2073)	准教授	教育社会学・学生支援	お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター	就職支援を含む学生支援
山中　　淑江 (2936)	教　授	臨床心理学・学生相談	立教大学学生相談所	学生相談分野
※岩田　　淳子	教　授	臨床心理学・学生相談	成蹊大学文学部	学生相談学会会員・専任カウンセラー
※村松　　健司	准教授	臨床心理学・学生相談	首都大学東京人文科学研究科	学生相談学会会員・専任カウンセラー
※渡部　　みさ	教　授	臨床心理学・学生相談	首都大学東京人文科学研究科	学生相談学会会員・専任カウンセラー

（※大学教育学会 非会員）

４、　**研究期間**　　2014 年 6 月～2017 年 5 月

５、　テーマの趣旨及び計画

（１）趣旨

発達障害者支援法は、大学等に「発達障害者の障害の状態に応じ、適切な教育上の配慮」を義務付け、日本学生支援機構平成 24 年度調査によれば、「発達障害（診断書有）学生 1,878 人」「発達障害（診断書無・配慮有）学生 2,746 人」が在籍する 506 校で、「学習指導」「保護者との連携」「臨床心理士等によるカウンセリング」「社会的スキル指導」「進路・就職指導」などが行われているが、試行錯誤の域を出ていないと指摘されている。一方で、「高等教育段階においても、意欲・能力ある障害者の教育機会の確保に向けた支援を推進する」（教育振興基本計画、平成 25 年 6 月閣議決定）、「障害のある学生の能力・適性，学習の成果等を適切に評価するため，大学等の入試や単位認定等の試験における適切な配慮の実施を促進する」（障害者基本計画、平成 25 年 9 月閣議決定）ことが国の政策として明示されている。さらに、障害者に対する合理的配慮をしないことが差別になる場合があると規定した障害者差別解消法施行（2016 年 4 月）まであまり時間は無い。法制度上の検討を踏まえ、諸大学における配慮事例の分析を行い、発達障害学生に対する合理的配慮について、例えば試験の回答時間の延長や必修科目の代替を認めるかという、成績評価やカリキュラムなど大学教育の根幹にかかわる問題の具体的検討をも含んだ研究が、高等教育における喫緊の課題になっている。

会員の業績としては、片岡美華会員の「高等教育における発達障害学生への導入・初年次教育」（玉村公二彦との共著）『奈良教育大学紀要』（2013 年）などがあるが、極めて限られている。本研究では、山中淑江会員が常任理事を務める日本学生相談学会から、『学生相談と発達障害』（学苑社, 2012 年）の編著者である岩田淳子常任理事・研究委員会委員長ほか、渡部みさ首都大学教授など臨床心理学・学生相談を専門とする同学会会員の力を借りる。教員、障害学生支援職員、学生相談専任カウンセラーの連携により研究に取り組む。

３職種の協働による研究であることから、本学会が普及させた FD（教育改善のための組織的研究・研修）の考え方が、教員中心の授業改善・カリキュラム改善にとどまらず、大学の真の意味での組織全体による教育改革を志向するものとして各大学に浸透し、さらに発展することをも目指す。

（２）計画

研究対象、方法および主責任者は以下のとおりである。

①大学教育における障害者差別解消法に関する研究は現時点で、青野「障害学生への合理的配慮と教育質保証」『季刊教育法』（2013 年）しかない。教育以外の領域を含む先行研究、および関係判例研究につき分析する。同法により義務付けられている文部科学省「対応指針」（平成 26 年度策定予定）と国立大学「対応要領」の解釈、具体的事例への適用について研究する。【責任者：青野・加藤】

②大規模な事例調査は、443 高等教育機関が回答した『障害学生修学支援事例集』（日本学生支援機構、2009 年、委員会座長：青野）しかない。これを用いて発達障害学生に対する具体的支援事例（教学マネジメントを含む）を分析する。他の具体的支援事例を収集し分析を行う。【責任者：加藤・青野】

③日本学生相談学会誌でも、教育に直接関連する研究は、山本佳子「アスペルガー障害学生の学業支援」（2010 年）など、限られている。個人情報保護に十分留意し学生相談における、教育に関係する具体的事例の調査・収集・分析を行う。【責任者：山中・岩田・渡部・大島】

④大学教育において参考となる中等教育を中心とした特別支援教育における研究の調査・分析を行う。その結果に基づき、高大接続を踏まえた発達障害学生支援・配慮について研究する。【責任者：片岡】

⑤発達障害学生の就職支援の研究は、富山大学における実践事例の報告などが注目されている。この分野における研究の調査・分析、および各大学等における先進事例の調査・分析を行う。企業における就労継続支援についても調査・分析を行う。【責任者：村松・望月】

⑥障害学生支援の先進国とされるアメリカ等、諸外国における関連研究・先進事例の調査・分析を、この分野の先駆的研究を行ってきた片岡会員を中心に行う。【責任者：片岡・橋場・望月】

国際委員会からのお知らせ

１．学会英語名称の公募

国際委員会では、学会の英語名称の改称について一昨年の 11 月以来、常任理事会と理事会でご提案してまいりました。昨秋の同志社大学での課題研究集会では、会長主催の緊急シンポジウムを開催し、この課題について会員の皆さまのご意見を伺いました。その内容も参考にしつつ、学会の英語名称の改称に向けて､英語での新名称を公募によって募ることが 3 月 29 日開催の第 103 回常任理事会で了承されました。提案の趣旨は以下の通りです。

本学会が一般教育学会の名称を現在の大学教育学会に改めた際に、学会の方向性を危惧して、あえて現行の英語名称（Liberal and General Education Society of Japan）を残してきたことは歴史的に意義のあったことではあります。しかし現在では、学会としての国際的プレゼンスを高めるような情報発信が必要になってきたことや､今の学会活動内容を表現する英語名称になっているか､国際的にわかりやすい学会名称か等の点からみて､英語名称を変更することはやむを得ないという方向で､以下の要領で公募を行うことになりました｡委員会としての素案は｢Japan Association of University Education｣ですが、この案にこだわるものではありません。

会員の皆さまから、本学会の英語名称にふさわしい候補を多数お寄せ頂くようお願い申し上げます。

＜応募送付先＞　大学教育学会事務局 ungakkai@gmail.com または FAX：042-704-7014

＜締切日＞　2014 年 5 月 12 日（月）

＜応募の際の記載事項（書式自由）＞

① 会員名（会員番号）
② 英語名称案
③ 提案理由
④ 連絡先メールアドレス（メールを利用されない方は、電話および FAX 番号）

今後のスケジュールは、以下の通りです。

１）会員から英語名称を公募する（4 月上旬～5 月 12 日）。周知方法：本ニュースレター（№96）、本学会ウェブサイト、本学会メール通信（4 月下旬配信予定）。
２）国際委員会は､これまでの国際委員会審議､昨年の緊急シンポジウムで示された意見を踏まえつつ、応募内容を整理する（5 月 13 日～5 月 29 日）。
３）応募内容を理事会で報告し、理事会は名称案決定方法を決定（5 月 30 日）。
４）常任理事会で名称案を決定（8 月 30 日）。
５）課題研究集会時の臨時総会（11 月 29 日）で名称を決定する。

２．大学教育学会が『共催』・『後援』する国際的な研究活動の募集

会員の皆さんが海外の大学教育研究者や専門家を招へいして行う研究活動に対して、学会として｢支援｣を行うこととなっています。この支援は、グローバル化する大学教育の状況についての理解促進と、研究活動の活性化の機会を設け、本学会員全体に国際的な研究交流の場を提供するために行うものです。

学会による支援形態は、以下の 2 種類です。

１.｢共催｣：費用の一部を負担する。また、名称の使用を許可し、会員に企画内容を告知する。
２.｢後援｣：学会の名称の使用を許可し、会員に企画内容を告知する。

企画をお持ちの方は、下記の情報を含む企画書（書式任意）を学会事務局宛にお送りください（随時募集しています)。

① 企画概要（趣旨、概要、講演・登壇者、開催時期、会場、他の資金・支援との併用）
② 申請する会員の情報（会員番号、所属、連絡先メールアドレスおよび電話番号）
③ 「共催｣･｢後援｣希望の別

＜送付先：大学教育学会事務局　ungakkai@gmal.com　FAX：042-704-7014＞

企画書を国際委員会で検討・審査し、採否をお知らせ致します。

（国際委員会委員長　濱名　篤）

＝事務局から＝

●【重要】 年会費納入のお願い

今年度（2014年度）の会費請求書、郵便払込取扱票を同封させていただきました。
5月2日（金）までに必ずご入金ください。
領収書につきましては、郵便払込票の受領書をもって替えさせていただきます。

年会費等郵便振替口座　00120-4-178891　「大学教育学会」

ご入金の際は郵便払込票をご利用ください。やむを得ず、銀行からご入金を希望される場合は、入金前に必ず、以下の大学教育学会　学会業務取扱センターまでその旨ご連絡下さい。

会費納入は、大会時の発表申し込みの前提条件となっております（詳細は、本学会ウェブサイトより「大学教育学会大会実施要綱」をご確認ください）。また過年度会費の滞納がある場合は、学会誌等の発送を見送る措置をとらせていただいております（細則3条2）。
皆様の速やかな納入をお願い申し上げます。

なお、納入状況については、学会ウェブサイトの会員ページにあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。

＜「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先＞
大学教育学会　学会業務取扱センター
〒170－0004　東京都豊島区北大塚3－21－10アーバン大塚3F　(株)ガリレオ内
TEL:03－5907－3750　FAX:03－5907－6364
E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

● 会員情報更新のお願い

新年度を迎え、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員ページ」にあります「会員情報の照会・更新」からご自身でご変更のほどお願い申し上げます。
定期刊行物は、宅配業者メール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。何卒ご協力をお願いいたします。

● メールマガジンの受信設定についてのお願い

会員の皆様に年2～3回、「大学教育学会メール通信」（メールマガジン）を配信しています。
ご登録のアドレスにおいて学会アドレスungakkai@gmail.comより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願いします。

● 団体会員、会誌配布団体の会員番号（ID）について【ご注意】

すでにご案内しております通り、団体会員、会誌配布団体の会員番号を2012年4月より変更しております。
これらの会員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

＜会員番号＞

以前の会員番号、千の位の数字と百の位の数字の間に「0（ゼロ）」を入れた5ケタの番号です。
例：　団体会員：（旧）3111→（現）3**0**111
　　会誌配布団体：（旧）5011→（現）5**0**011

● 大学教育学会第36回（2014年度）大会参加費・懇親会費等の払込について

本ニュースレター（96号）に参加費・懇親会費等の払込についても詳細をご案内しております。
また、払込取扱票についても同封しております。

● **新課題研究委員会の設置に向けて（メンバー募集）**

本ニュースレター（96号）に、課題研究候補選定委員会報告、新課題研究の企画案、新課題研究委員会のメンバー募集の記事を掲載しております。また学会ウェブサイトでもお知らせしています。

● **【国際委員会】 学会英語名称の公募・国際的な研究活動への『共催』・『後援』**

本ニュースレター（96号）に、国際委員会からの学会英語名称に関わる経緯説明と、国際的な研究活動への支援内容とその募集記事を掲載しております。また学会ウェブサイトでもお知らせしています。

● **【アーカイブズ委員会】 学会関連資料のご寄贈のお願い**

特に探究している資料は以下の通りです。学会事務局まで「着払い」でお送りください。

大会発表要旨集録（1979,1981,1989,1990、1993,1998,2000～2004,2010 年）

課題研究集会要旨集（1981,1982,1985,1986～1989,1992,1993,1998,2001,2003～2005,2008 年）

その他、一般教育学会時代の資料もご寄贈をお待ちしています。

● **「学士課程教育における共通教育の質保証」に関するアンケートへのご協力のお願い**

同封されている「「学士課程教育における共通教育の質保証」に関するアンケート回答者へのお声がけについて（お願い）」をご参照ください。アンケートは本学会ウェブサイトからアクセスします。＜アンケート回答期間：2014年4月15日～6月15日＞

● **2014年度課題研究集会について**

2014年度課題研究集会（開催校：神奈川工科大学）は、11月29日（土）・30日（日） 神奈川県厚木市の神奈川工科大学にて開催予定です。詳細は次回のニュースレター（97号、9月中旬発行予定）にてお知らせいたします。

大学教育学会

【学会事務局】

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

桜美林大学 淵野辺キャンパス 3階

Tel/ Fax: 042-704-7014

E-mail：ungakkai@gmail.com

URL：http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】

大学教育学会　学会業務取扱センター

〒170－0004　東京都豊島区北大塚3－21－10アーバン大塚3F　(株)ガリレオ内

TEL：03－5907－3750 / FAX：03－5907－6364

E-mail：g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp